

大日本塗料株式会社

大日本塗料株式会社

Webサーバを不正侵入から守るIPSをフルアウトソーシングで運用するNetStare IDS/IPS

高層ビルや架橋などの大型施設から家電、住宅、自動車などに至るまでさまざまな領域で使われている塗料。大日本塗料株式会社では、自社の塗料に関する情報をインターネットで公開している。そのシステムを運用しているのは、NTTPCコミュニケーションズのソリューション「Master'sONE」と、セキュアヴェイルの不正侵入検知・防御システムの運用監視サービス「NetStare IDS/IPS」である。

大日本塗料株式会社は防食技術（サビ防止）に定評のある塗料メーカー。環境への影響が少なく耐久性にも優れる同社の製品は新幹線、東京湾アクアライン、明石海峡大橋や2012年開業予定の東京スカイツリーにも採用されている。

同社ではインターネット上に「販売店向け情報公開システム」、「自動車補修用・配合検索システム」を公開してきた。前者は同社製品の特徴、施工上の要点、取り扱いの注意などの情報を、後者は自動車修理業者向けに車種ごとに異なる色を作るための塗料の配合情報を提供している。

この2つのシステムのWebサーバを、不正侵入などのインターネット上の脅威から守って

るのがNTTPCコミュニケーションズのソリューション「Master'sONE」であり、そのセキュリティ面の運用を担当しているのがセキュアヴェイルの不正侵入検知・防御システムの運用監視サービス「NetStare IDS/IPS」である。同社のWebサーバはNTTPCコミュニケーションズのデータセンターで管理し、アクセスの経路にIPS（不正侵入検知・防御）製品「Proventia」を設置している。Webサーバにアクセスするには必ずIPSを経由する形になり、その段階で不正なアクセスは検知、防御される仕組みだ。このIPSをリモートで監視・運用するのがNetStareの役割である。

▶ 本来の業務を遂行しつつ、高度なセキュリティを維持する難しさ

Master'sONEを導入するきっかけにはひとつの事件があったと、管理本部システム部チームリーダー 藤井博之氏は説明した。

「サーバ公開時に考えられるセキュリティ対策を施していたのですが、不正侵入によりトップページを改ざんされるというトラブルがありました。その後セキュリティを強化していったのですが、限られた人員で高度なセキュリティを維持し続けることに限界を感じていました」

Webサーバのセキュリティを維持するには、常に不正アクセスの手法や新しい脅威に対する情報を集め、対策を習得することが求められる。たとえ完璧と思われる対策をしたとしても、いずれ新たな脅威が出現すれば対応しなくてはならない。「もちろんセキュリティは重要です。しかし、システム部の本来の業務は、受注販売といった業務を円滑に進めるためのITシステムの構築、運用です。

そういう基幹系アプリケーションは常に改善が必要であり、その他の業務として常にセキュリティを維持し続けるのは負担が大きかったのです。

そこで餅は餅屋、セキュリティの専門家にフルアウトソーシングすることを検討しました。それにWebサーバを公開することは、24時間お客様に情報を提供することを意味します。当然24時間365日サポートしなくてははいけません、夜中のトラブルも考えれば社内の人員だけでは不可能です。しかしフルアウトソーシングすれば本当の意味で24時間サポートが可能になります」

そこで2006年に「Master'sONE」を導入、NTTPCコミュニケーションズとセキュアヴェイルによる一括保守運用が始まった。セキュアヴェイルは、遠隔操作でIPSにアクセスし、システムマネージメントを行っている。



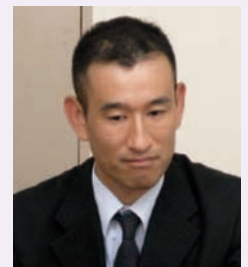
大日本塗料株式会社
管理本部 システム部
部長

野口 雅義氏



大日本塗料株式会社
管理本部 システム部
チームリーダー

藤井 博之氏



NTTPCコミュニケーションズ
ネットワーク事業部
ビジネスソリューション部

高岡 慎一郎氏

大日本塗料株式会社

企業概要

事業内容：総合塗料メーカー

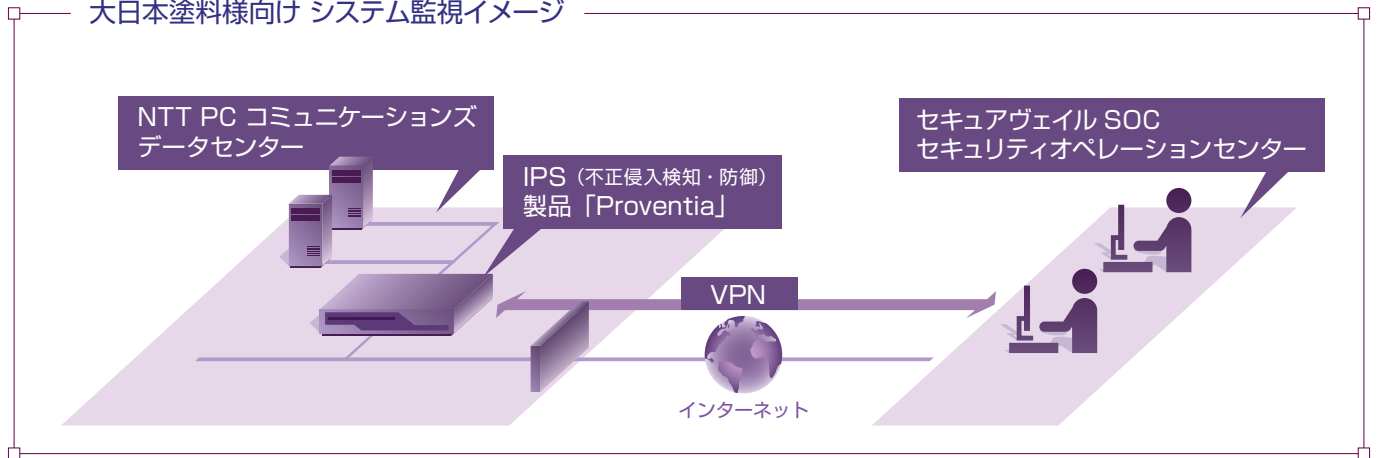
創業以来培ってきた防食技術をはじめとする独自技術により、地球環境や資源を護り、広く社会の繁栄、豊かな暮らしの実現に奉仕してきたが、良き企業市民としての自覚を更に高め、法令遵守はもとより、社会倫理規範に適合した経営を行っている。平成21年7月で創業80周年を迎えている。

URL：http://www.dnt.co.jp/



大日本塗料株式会社

大日本塗料様向け システム監視イメージ



セキュアヴェイルの迅速な保守と専門家としての判断を評価

同社がNetStareを採用したのは、保守の迅速さ、専門家としての判断能力を買ったことだ。契約するにあたって他のソリューションとの比較をしたときに、保守がもっとも迅速と思われたのがセキュアヴェイルだった。

「他社はパッチ適用を営業時間帯に行うのに対し、セキュアヴェイルは夜のうちに適用し、動作検証もやってくれるので、翌日には問題なく利用できます。また他社はパッチを適用するかどうかの判断も当社に求めてきました。セキュアヴェイルは当社のシステムや業務内容から必要とされるパッチを判断して適用してくれます。それは私たちの望んでいるフルアウトソーシングの形でした」

NetStare導入後、システム部はセキュリティを気遣う苦勞が軽減された。現在ではセキュアヴェイルから送られてくるメールで、日々、管理状況と最新のセキュリティ情報を受け取っているだけである。パッチを適用する際には事前に予告し、適用後にはその結果が届けられる。「不正侵入など問題があるインシデントが発生した際にもメールで知らせが届きますが、現在まですべて正しく防御できているために、トラブルはありません」

また藤井氏はNTTPCコミュニケーションズとセキュアヴェイルの2社による一元的な保守体制も評価している。

「私たちが避けたいのは複数の業者に依頼する

ことで、トラブル発生時にたらい回しにされること。Webサーバの公開にはハードウェア、アプリケーション、回線など複数の要因が関係します。だからすべてを一括して運用してくれるサービスを希望していました。NTTPCコミュニケーションズとセキュアヴェイルによる一括保守運用ならワンストップで運用してくれます」

NTTPCコミュニケーションズの高岡慎一郎氏はセキュアヴェイルと協同した理由として「運用の信頼性」を挙げた。「以前、協同で仕事をした経験からセキュアヴェイルの仕事ぶりを理解していました。また会社の位置がデータセンターとも近く、トラブル発生の際には迅速に対応してもらえることも安心要素でした」という。

レガシーシステムも最新のセキュリティで守る NetStare

Master'sONEとNetStareの導入のメリットは他にもあった。実は販売店向け情報公開システムと自動車補修用・配合検索システムの2つはWindows NT 4.0とIISで動くプログラムとして開発されたもので、互換性の問題から最新OSでは稼働しない。そのためOSのバージョンアップができなかった。しかしOSのサポートは終了しており、その脆弱性は解決しようがなかった。

「しかしMaster'sONEとNetStareで管理したIPSを導入することで、もともとのシステムに変更を加えることなく、セキュリティを高め

ることができました」

藤井氏は、システム運用をセキュリティの専門家に依頼した意義を次のように語る。

「セキュリティに100%、完璧ということはありません。しかし、企業としてWebサーバを公開する以上、破られにくい仕組みは確保しておくべきです。それには常に情報を収集する専門家のノウハウが必要。専門家は新たな脅威に対応してくれるだけでなく、私たちには思いも寄らない気の利いた対策も施してくれます。セキュアヴェイルはシステム全体、当社の

業務内容を加味した上で、最適なセキュリティの仕組みを考えてくれました」

管理本部 システム部 部長 野口雅義氏も「インターネットは何が起こるか分からない世界。セキュリティを疎かにしてはサーバが悪用されて、知らないうちに加害者になる可能性もあります。しかし知らなかったではすまされません。企業には新たな脅威に対応していく責任があります。そのためにセキュアヴェイルに運用を依頼しましたし、NetStareのサービスに安心しています」とセキュアヴェイルへの信頼を語った。

SecuAvail

株式会社セキュアヴェイル

本社：

〒530-0044 大阪府大阪市北区東天満 1-1-19 アーバンエース東天満ビル

TEL：06-6136-0020

E-Mail：sales@secuavail.com

URL：http://www.secuavail.com